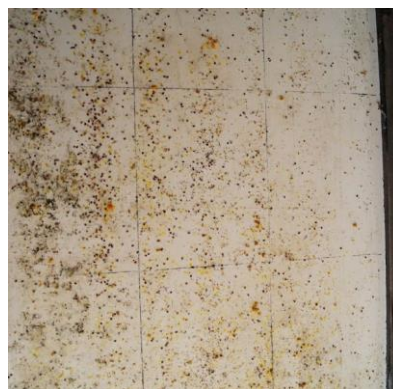


ダニ対策用 10 枚箱の使い方

俵養蜂場 養蜂参考資料ライブラリー (2024 年 5 月 改訂)

欧米の巣箱は、ふつう東洋の巣箱のように底板と一体化していません。移動には不便ながら、上下の巣箱を自由に入れ替えできる利点があります。特に落下するヘギイタダニを調べるためには、別売されているネット付底板や粘着シートが使えて便利です。同じサイズの粘着シートが普及しています。俵養蜂場の「ダニ対策用 10 枚箱」は、同じ目的のために制作した巣箱です。粘着シートの代わりにワセリンや油などを塗って使用します。



 Tawara Apiaries

使用目的

1 ダニの寄生状態をモニターする。

駆除薬剤を使わなくても、ミツバチのグルーミングなどで成蜂に寄生する全ダニの内 25%程度が毎日自然に落下すると言われます。ただし粘着シートだけで駆除効果は期待できません。落下数はシュガーロール法による寄生率と合わせて、ダニ対策立案の基本情報として使います。

2 駆除薬剤の効果を検証

駆除剤投与前の一定期間の落下数と投与後の結果と比較して検証します。

投与後は、少なくとも 24 日後まで毎週落下数を調べて薬剤の効力の持続状態を検証します。7 で割れば落下数/日が出ます。

注意

1 粘着シートにはダニだけでなく、巣屑・花粉粒などが多く落ちます、長く放置するとダニが見え難くなります。1 週間以内の検査が望まれます。

2 群勢との比較対照で寄生状態を判断します。

たとえば 3 万匹の群で落下ダニ 20 匹/日であれば、群全体の成蜂への寄生数は 80 匹程度、寄生率は 0,0026%, 当面は許容範囲ですが、5 千匹の群で同じ数が落下すれば、寄生率は 1,6%, 直ちに駆除が必要になります。

3 粘着物はワセリン、植物油など。石油系は使わないこと。